

第 1 章 計画の策定過程



計画の策定過程

		審議会	市議会	市民など	庁内		
					策定委員会	調査員会	PT
令和元年度	7月				8/5 1回 8/28 2回	8/22 1回	9/6 1回 9/9～9/24 ヒアリング
	10月				11/1 3回 11/28 4回	10/21 2回 11/26 3回	12/25 2回
	1月				2/3 5回		2/3 3回 3/25 4回
令和2年度	4月						
	7月				9/1 6回		
	10月		11/30 1回		11/24 7回	10/7 4回 11/19 5回 12/23 6回	10/6 5回 11/17 6回 12/22 7回
	1月		1/29 2回 2/17 3回 3/12 4回	2/4～15 市民アンケート	2/12 8回		
令和3年度	4月		6/21 5回	5/26～7/19 区長会 意見交換会 6/11～30 中学生 アンケート	6/1 9回		
	7月	7/2 1回 7/16 2回 8/5 3回 9/2 4回	9/21 6回	7/12～8/6 高校生 アンケート 7/28～8/27 市民意見交換会		9/3 7回	8/24 8回
	10月	12/21 5回	12/13 7回	10/2～11/11 区長会 意見交換会	10/1 10回 11/1 11回		
		12/23～1/20 パブリックコメント					
	1月	1/14 6回 1/21 7回 1/28 8回 2/4 9回 2/17 答申	3/22 8回 議決				

PT:プロジェクトチーム

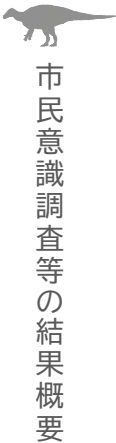
第 2 章 市民意識調査等の結果概要

市民生活の現状について全体の傾向を把握し、これまでのまちづくりに対する市民の意識や、これからの市政に対するニーズを把握するため、市民アンケートを実施しました。

また中学生および高校生の進路や将来つきたい仕事、現在の勝山市に対する意識や将来へのニーズを把握するためアンケートを実施しました。



アンケートの結果はこちら



市民アンケート

【対 象】 勝山市に住民登録している満 16 歳以上(R2.12.1 現在)の市民
無作為に抽出した 3,000 人を対象

【調 査 期 間】 令和 3 年 2 月 4 日～15 日

【回収数(率)】 配布数 3,000 回収数 1,492 回収率 49.7%

中学生アンケート

【対 象】 勝山市立中学校に在籍する生徒全員

【調 査 期 間】 令和 3 年 6 月 11 日～30 日

【回収数(率)】 配布数 529 回収数 518 回収率 97.9%

高校生アンケート

【対 象】 福井県立勝山高校に在籍する生徒全員

市内在住で勝山高校以外に在籍する方全員

【調 査 期 間】 令和 3 年 7 月 12 日～8 月 6 日

【回収数(率)】 勝山高校 配布数 310 回収数 269 回収率 86.8%

勝山高校以外 配布数 316 回収数 96 回収率 30.4%

第 3 章 勝山市総合行政審議会

委員名簿



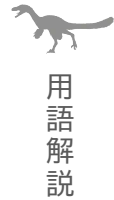
氏名	役職等(委嘱時)
飯田 健志	福井大学 国際地域学部 講師
石塚 知和	勝山記者クラブ幹事
大石橋 響子	公募
太田 啓斗	勝山市地域おこし協力隊
織田 研吾	勝山商工会議所 青年部
川端 裕子	I ターン代表者
小泉 綾子	勝山商工会議所 青年部
小泉 多加江	公募
立平 政勝	公募
◎ 塚本 利幸	福井県立大学 看護福祉学部 教授
富田 道治	大野公共職業安定所 所長
○ 中村 敬治	区長連合会代表
松田 優一	勝山市 ICT 教育アドバイザー
山内 嘉祐	越前信用金庫 勝山支店 支店長

◎ 会長 ○職務代理者

第 4 章 用語解説

※ページ番号については、その語句が最初に出てくるページ数を表記しています。

あ行



■IoT アイオーティー(P18)

Internet of Things の略。全ての「モノ」がインターネットにつながること。

■ICT アイシーティー(P19)

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関する技術の総称。従来から使われている「IT(Information Technology)」に代わる言葉として使われている。

■ESD イーエスディー(P12)

Education for Sustainable Development の略。持続可能な社会づくりの担い手を育むための教育のこと。

■インバウンド(P49)

一般的に外国人の訪日旅行の意味で使われる言葉。

■AI エーアイ(P18)

Artificial Intelligence の略。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術のこと。

■SNS エスエヌエス(P19)

Social Networking Service の略。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのこと。LINE やインスタグラムが代表的である。

■SDGs エスディージーズ(P8)

Sustainable Development Goals の略。17 の世界的目標、169 の達成基準、232 の指標からなる持続可能な開発のための国際的な開発目標のこと。

第4章 用語解説

■LGBT エルジービーティー(P17)

女性同性愛者(レズビアン:LESBIAN)、男性同性愛者(ゲイ:GAY)、両性愛者(バイセクシュアル:BISEXUAL)、性別越境者(トランスジェンダー:TRANSGENDER)の頭文字をとった言葉。

か行

■関係人口(P29)

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のこと。

■クラウドファンディング(P28)

群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語。不特定多数の人が、他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。現代ではインターネット経由で行われることが多い。

■健康寿命(P40)

平均寿命のうち、健康で活動的に暮らせる期間のこと。WHO(世界保健機関)が提唱した新しい指標で、平均寿命から、衰弱・病気・認知症等による介護期間を差し引いた寿命のこと。

■交通弱者(P57)

「自動車中心社会において、移動を制約される人」または「交通事故の被害に遭いやすい人」(子ども、高齢者など)を指す言葉。

■交流人口(P59)

その地域に訪れる人、または交流する人のこと。その地域に住んでいる人、つまり「定住人口」に対する概念。

第4章 用語解説



■コミュニティ(P23)

地域社会あるいは共同体のこと。住環境として、住民の間のつながりや相互の協力関係などを指す言葉としても用いられる。

■コミュニティビジネス(P12)

地域が抱える課題を、地域資源を生かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業のこと。

さ行

■サテライトオフィス(P50)

企業本社や、官公庁・団体の本庁舎・本部から離れた所に設置されたオフィスのこと。

■ジオサイト(P24)

ジオパークの中の数ある魅力的なスポットの中で特に地球の活動を伝える地形・地質を見所とするサイトのこと。

■ジオパーク(P2)

「地球・大地(ジオ)」と「公園(パーク)」とを組み合わせた言葉で、地層や地形などとして残る地球の活動の痕跡を守り、未来へと伝え残すプログラムのこと。ジオサイトを含む地域資源を持続可能な形で観光や教育などに生かし、地域振興につなげる取り組みを行う。恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは平成21年10月に日本ジオパークに認定された。

■シティプロモーション(P29)

人口減少抑制等を目的として地域のイメージを高め、知名度を向上させ、住民に愛郷心を醸成する活動のこと。

■シビックプライド(P24)

個人個人が都市(市区町村、商店街、沿線など)に抱く誇りや愛着のこと。

■生涯スポーツ(P43)

生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、ど

第4章 用語解説

こでも気軽に参加できる」スポーツのこと。

■情報モラル(P35)

人間が情報をもちいた社会形成に必要とされる、一般的な行動の規範のこと。

■人生 100 年時代(P29)

世界で長寿化が急激に進み、先進国では 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 100 歳を超えて生きる「人生 100 年時代」が到来すると予測し、これまでとは異なる新しい人生設計の必要性を説く言葉。ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットンとアンドリュー・スコットが「LIFE SHIFT(ライフ・シフト)100 年時代の人生戦略」(東洋経済新報社)で提唱した。

■スマート農業(P48)

ロボット技術や情報通信技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現等を推進している新たな農業のこと。

■性的マイノリティ(P17)

配偶者や恋人として異性を愛することが多い社会において、LGBT をはじめとして、男女どちらにも恋愛感情を抱かない人や、自分自身の性を決められない・分からない人など、何らかの意味で「性」のあり方が多数派と異なる人のこと。

■ゼロカーボンシティ(P60)

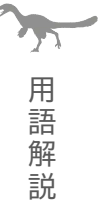
再生可能エネルギーによって稼働され、二酸化炭素の排出がなく、温室効果ガス排出において地球に害を及ぼすことはない都市のこと。日本の環境省においては、2050 年に二酸化炭素(温室効果ガス)排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長が公表した地方自治体をゼロカーボンシティとしている。

■相互扶助(P23)

社会・組織の構成員同士が互いに助け合うこと。



第4章 用語解説



■Society5.0 ソサエティ 5.0(P18)

科学技術基本計画の第5期でキャッチフレーズとして登場。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)といった、人類がこれまで歩んできた社会に次ぐ第5の新たな社会を、デジタル革新、イノベーションを最大限活用して実現するという意味で名付けられた。

た行

■第5期科学技術基本計画(P18)

科学技術基本法に基づき政府が策定する、10年先を見通した5年間の科学技術の振興に関する総合的な計画のこと。

■体験型観光(P49)

従来の観光スポットを巡る観光ではなく、サイクリングやカヌー、スキーなどのアクティビティや文化などを、肌で体験する観光の形態のこと。

■滞在型観光(P49)

1ヵ所あるいは一定の地域に宿泊し、体験型レジャーなどを楽しむ観光の形態のこと。

■脱炭素(P2)

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を防ぐために、石油や石炭などの化石燃料から脱却すること。

■多文化共生(P17)

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

■着地型観光 (P49)

旅行者を受け入れる地域(着地)側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する観光の形態のこと。

第4章 用語解説

■通過型観光(P49)

ある地域に留まることなく観光名所をスポットで巡るような観光の形態のこと。

■DX ディーエックス(P19)

Digital Transformation の略。2004年にスウェーデンのウメオ大学教授、エリック・ストルターマンが提唱したとされる「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という仮説のこと。ビジネス用語としては、おおむね「企業がテクノロジー(IT)を利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」といった意味合いで用いられる。

■テレワーク(P18)

勤労形態の一種で、情報通信技術を活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態のこと。

は行

■Park-PFI パークピーエフアイ(P46)

公園のパブリックスペースを運営する民間事業者を公募により選定する制度のこと。この制度はPFIの手法を用いて民間資金で公園を運用することで、管理者の財政負担を軽減しつつ公園の質や利便性を向上させることを目的としている。

■PFI ピーエフアイ(P19)

Private Finance Initiative の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う新しい手法のこと。

■ビッグデータ(P18)

コンピュータや通信機器などの高機能なデジタル機器が仕事や暮らしに広く利用されることにより、日々刻々と記録されている様々なデータの巨大な集まりのこと。

■PBL ピービーエル(P12)

Project Based Learning の略。生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解



第4章 用語解説

決する能力を身に付ける学習方法のこと。

■PPP ピーピーピー(P19)

Public Private Partnership の略。行政が行う各種行政サービスを、行政と民間が連携し民間の持つ多種多様なノウハウ・技術を活用することにより、行政サービスの向上、財政資金の効率的使用や行政の業務効率化等を図ろうとする考え方や概念のこと。

■ふるさとルネッサンス(P2)

平成13年から勝山市が掲げている、勝山市の「再生」と「未来への進化」を目指し、元気な市政を実現するための理念。

や行

■U・I ターン(P15)

Uターンは生まれ育った場所(故郷)に帰って新たな生活を送ること。Iターンは都会生まれの人が地方に移住すること。

■ユネスコスクール(P34)

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のこと。

ら行

■6次産業化(P48)

農林水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開し、経営の多角化を図ること。

わ行

■ワーケーション(P50)

「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。

